

愛知県議会 6月定例議会について

愛知県の6月定例議会は6月14日から7月3日まで開催されました。

豚コレラ対策などの補正予算2件、ヤード（自動車解体施設・場所等）における盗難自動車解体防止に関する条例制定をはじめ条例6件、その他の議案8件が提案されました。

今回の定例議会は、共産党議員がゼロになる中で、どんな議論がされ各会派がどういう態度をとるかが注目されました。

議案はすべて全会一致で可決されました。閉会日は、共産党議員

がいた時に行なわれていた討論もなく、15分ほどで閉会しました。

大村知事は開会日の提案説明で、産業の活性化、アジア競技大会、ジブリパーク、国家戦略特区、リニア中央新幹線、自動運転、新体育館、Aichi Sky Expoなど、大企業優先、大型事業・イベント重視の発言を行いました。

補正予算では、次世代自動車産業用地の造成工事費用として2億円が予算化されました。これは(株)デンソーと西尾市の要請によるもので、1企業のために県費を投入して用地を造成するというもので

す。大村知事は記者会見で、「デンソーから『国際競争を打ち勝つためにできるだけ早くほしい』と言われたので、用地確保を急ぎ、1日も早く造って1日も早く渡したい」と発言していたものです。次年度以降の予算も含めると124億円もの巨費を投じるものです。トヨタのテストコースの用地造成と全く同じ構造です。大企業優遇の県政は許されません。

また、豚コレラ緊急対策として12億5千万円が予算化されました。(党 県政対策室)

「表現の自由」を守るため力合わせよう！

愛知県委員会は8月8日、国際芸術展「あいちトリエンナーレ2019」の企画展「表現の不自由展・その後」が中止に追い込まれた問題で、大村知事に再開を求める申し入れを行ないました。申し入れ全文は、下のカコミの通りです。



愛知県知事 大村 秀章 様

2019年8月8日 日本共産党愛知県委員会
委員長 岩中正巳

あいちトリエンナーレ2019「表現の不自由展・その後」にかかわる河村名古屋市長の発言について、知事は8月5日の記者会見で「一連の発言は憲法違反の疑いが極めて濃厚」と述べられました。また、「公権力を持ったところだからこそ表現の自由は保障されなければならない」とも述べられています。日本共産党はこの知事の発言を「表現の自由」を保障した憲法21条を守る行政の長の発言として支持するものです。表現の自由への公権力の介入、また犯罪テロ行為の予告などで表現の自由を脅迫する行為に対し、それを許さない姿勢を引き続き堅持していただくことを期待します。

8月6日にはあいちトリエンナーレ2019参加アーティスト72名が連名で、テロ予告と脅迫に強く抗議するとともに、一部の政治家による脅迫と恫喝に抗議する趣旨でステートメントを発表しました。参加アーティストの皆さん、そして「表現の自由」が脅かされる行為に危惧を寄せる皆さんの思いをふまえ、下記の点でご尽力いただくことを要請します。

- 1、あいちトリエンナーレ2019実行委員会の長として、憲法で保障された表現の自由を守る立場から、中止されている「表現の不自由展・その後」を再開することを検討してください。
- 2、不当な権力や脅迫から「表現の自由」と市民の安全を守るため、行政としてさらなる努力を強めてください。

以上